

令和6年10月定例記者会見

質疑応答の概要

①11月20日は世界子どもの日「とみやわくわく子どもミーティング」の開催

Q.

直接関係するものではないが、冒頭の市長あいさつの中で、東京で開催された TEENS SQUARE で富谷市の発表が絶賛されたとのことですが、具体的にどのような発表だったのか、またどの点が絶賛されたのか教えてください。

A.とみや子育て支援センター所長

TENNS SQUARE のシンポジウムでは、参加都市の子どもたちが発表を行いました。富谷市からは、生徒会サミットに参加した生徒が出席しました。例えば、昨年度の生徒会サミットで学級憲章を作つてはとの意見があり、今年度、全中学校の全クラスで学級憲章を作つた話など、生徒会サミットでの取り組みを発表しました。

また、富谷ユネスコ協会ジュニア部・青年部からも2名出席し、全国でも珍しいジュニア部の立ち上げに至った経緯や、青年部でも語り合いの会を行つており、参加生徒の経験から語り合いの会を通して自分がこう立ち直ることができた話を発表しました。

こうした発表が参加者に響いたのではないかと思います。

Q.

子どもたちを成長させていく仕組みについて、構想や思いなどがありましたら、教えてください。

A.市長

平成30年11月20日世界子どもの日に合わせて、子どもにやさしいまちづくり宣言を行つて以来、全庁を挙げて子どもにやさしいまちづくりに取り組んでおります。全ての部署が意識し、毎年、庁内の推進会議の場で検討・評価を行い、その評価を子ども向け版として児童生徒に報告しています。この全庁を挙げてという点が高い評価を受け、9月には、中国山東省濟南市で開催されたユニセフの東アジア・太平洋地域子どもにやさしいまちづくり会議に、日本を代表して招待を受けて取り組みを発表したところです。

生徒会サミットでも、グループワークの中に課長たち管理職が入り、直接子どもたちの意見を聞き対応しております。ほかの自治体では考えられないという声もあり注目いただいているところであります。仕組みとして、市役所庁内で全庁を挙げてという体制をつくっているのは、他の自治体よりは先駆けていると思います。

○その他、案件以外の質問

Q.

衆議院議員総選挙について、富谷市のある宮城4区では全市町村で立憲民主党の候補が自民党候補より得票を上回る結果となりましたが、その辺りについて所感を伺いたい。

また、宮城県内では5区は自民党候補で、5区以外は立憲民主党候補が当選したということで自民党候補にとって厳しい結果になりますが、どの辺りに原因があったとみているか教えてください。

A.市長

戦後最短での解散投開票とあって選挙管理委員会、市としても大変心配しておりましたが、事故やトラブル等なく無事に投開票を終えほっとしているところであります。結果に関しましては、予想以上に政権与党に対する逆風が吹いての与党の過半数割れとなったものを感じております。

私ども、市町村自治体の長としては、これから補正予算や新年度の予算に向けて要望活動の時期であったので、これからどういう形で要望活動を行っていくか、どこに行けばいいのかなど、今のところ先が見えない状態になってしまい、予定していた要望活動を今回は延期したところです。状況が落ち着くのを待って要望活動を再開していきたいと思っております。国の動向をみながら自治体でやれることはしっかりと取り組んでまいります。

二点目の質問に関しては、自民党に関する裏金問題や公認候補でない者へ2000万円の政党助成金を渡した問題が大きな逆風になったのだろうと思います。今回は終始、裏金問題を立憲民主党やその他政党が徹底的に追及していた選挙戦だったと思います。それが、最終的には大きな影響を与えて自民党に対する不信感となり、このような結果につながったと思います。